

# 言語活動（表現力の向上）に視点をあてた学習活動の展開

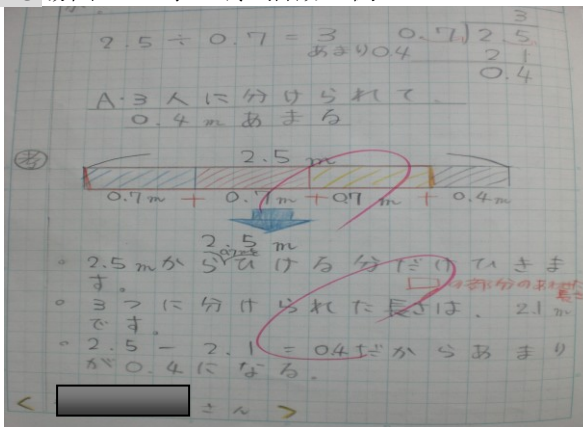
【越谷市教育委員会】

- 1 学校、学年、教科 小学校、全学年、算数
- 2 ねらい 算数科の学習過程に適切な言語活動を位置づけ、取り組み合わせることで、児童の知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- 3 取組
  - ・活発な言語活動を展開するため、「表現力の向上」に重点をおいた授業実践をする。
  - ・学習を深める言語活動〈かくこと及び話すこと〉を学習過程に明確に位置づけ授業実践する。

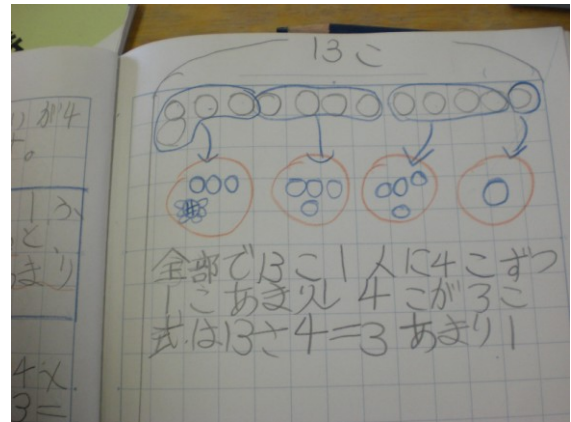
過程	(1) つかむ	(2) 考える	(3) 話し合う	(4) まとめる・振り返る
内容	・既習との関連やちがいを を見つける。 ・根拠を明らかにし、 見通しをもつ。	・言葉や数、式、表、 グラフなどを関連 づけながら考え方 をかく。	・順序立てて説明する。 ・ねらいにそって 話し合う。	・本時を振り返る。 ・自分の言葉でまとめる。
言語	話す・かく・書く	かく	話す（話し合う）・かく	書く

・上記の学習過程にそって、学習指導を行う。特に（2）～（4）を重視した。  
 ※図や式、表、グラフ、言葉などをかくと文章を書くとし、児童に意識付けを図った。

## ○考える場面での〈かく〉活動の例



答えを求めてから図をかいて再び考えることで、自分の考えのよい点や誤りに気づいている。



図をかいて考えてから式を立てることで、筋道立てて考えている。

## ○話し合う場面での〈話す〉活動の例



理由を問われ、根拠を明らかにしながら筋道立てて考える。

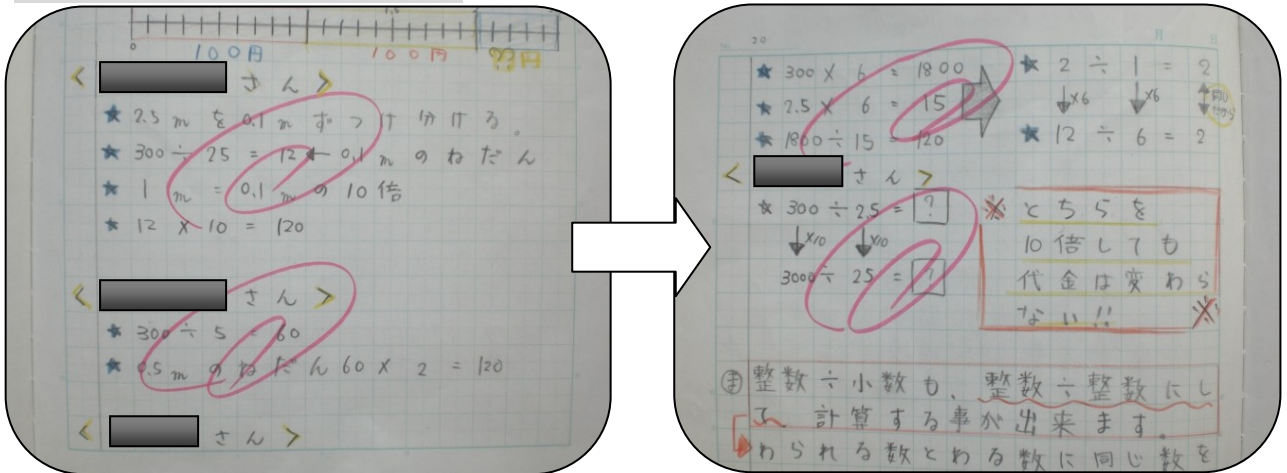


友だちの考えや表現したことから、一人では気付かなかった新しい視点を得る。



双方向的な発表をすることで、考えを全体で広く共有する。

○話し合いで聞いたことを発展させる〈かく〉活動の例



友だちの発表を聞いてよと思ったこと・気がついたことなどをかく。  
それをもとに、自分の考えを補ったり、深めたり、よりよい表現にする。

○まとめる・ふり返る場面での〈書く〉活動の例

**【自己評価カード】(高学年)**

**数値化する観点**

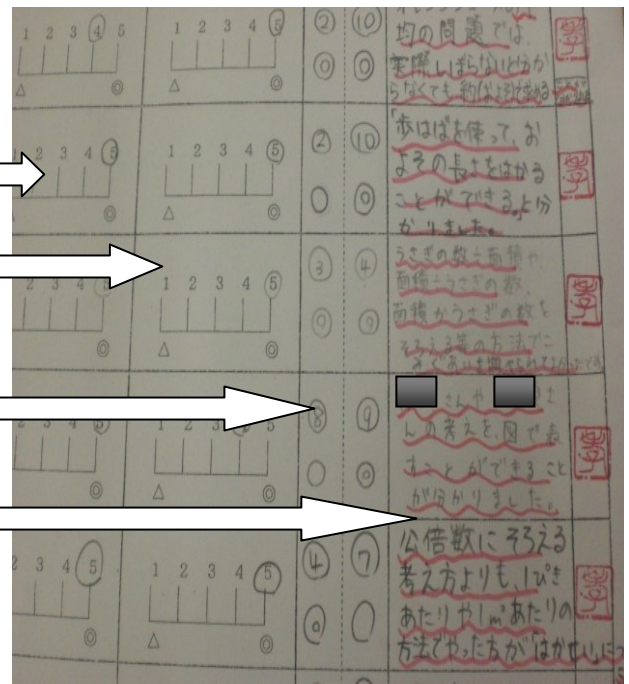
- ・「問題を解くときに、今まで習ったことを生かしたか」 (既習を活用しているか)
- ・「説明したり聞いたりすることで、今日の学習内容がよく分かったか」 (学習の理解度・言語活動の充実度)

**簡易評価の観点**

自己評価一覧表(略)の中の本時に合う観点

**文章にする観点**

「今日使ったこと」「今後に生かせそうなこと」など視点を明確にしたもの。単元を通して学習内容に関する記述を残し、考えを見直したり、深めたりすることができるようにしている。



4 成果 (○) と課題 (●)

- ノートに考えを残す習慣が身につく、考えを見直したり深めたりすることができるようになった。
- 他教科でも、自分の考えをまとめたり意見交換をしたりして、言語活動が盛んになってきた。
- 言語活動を意識した授業を行うことで、教師の支援すべきことが明確になってきた。
- 「何をかく(書く)のか」及び「何を話すのか」について、より具体的な視点をもつ必要がある。
- 発達段階、児童の実態、扱う題材等で重視すべき言語活動は異なる。定期的に見直し改善することで、より充実した学習活動を展開させていく必要がある。
- 思考力・判断力・表現力がどの程度高まったのかを見取るため、評価を工夫する必要がある。